

# 技術情報

JA 全農やまぐち

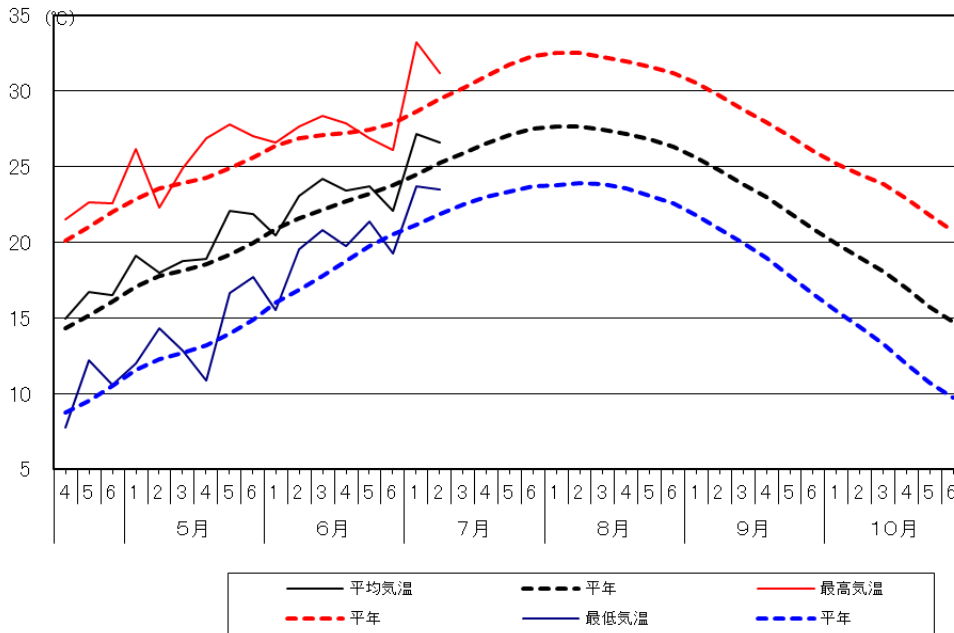
TAC・営農推進課 (083-988-0681)

平成 28 年 7 月 20 日発行

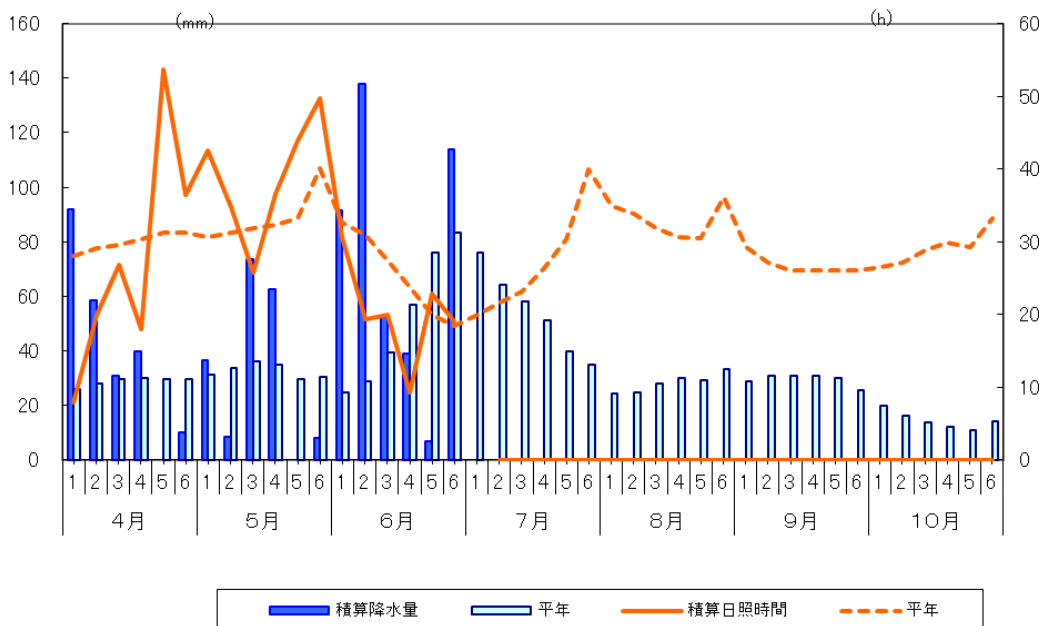
第 220 号

## 1 気象概況

気温 (アメダス山口)



降水量・日照時間 (アメダス山口)



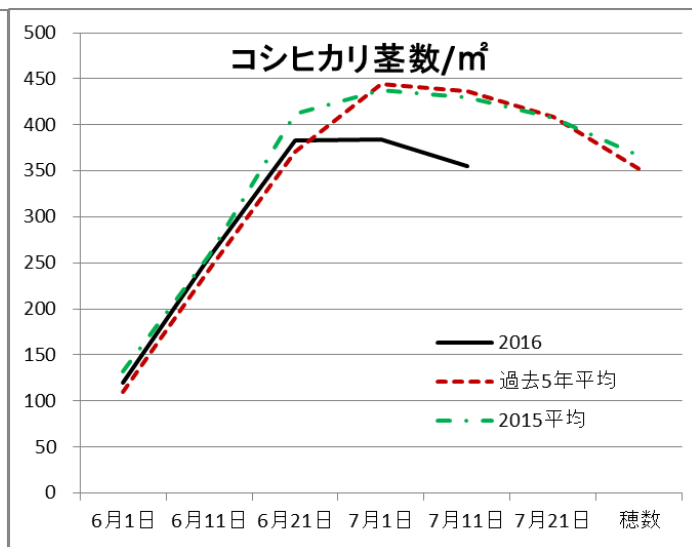
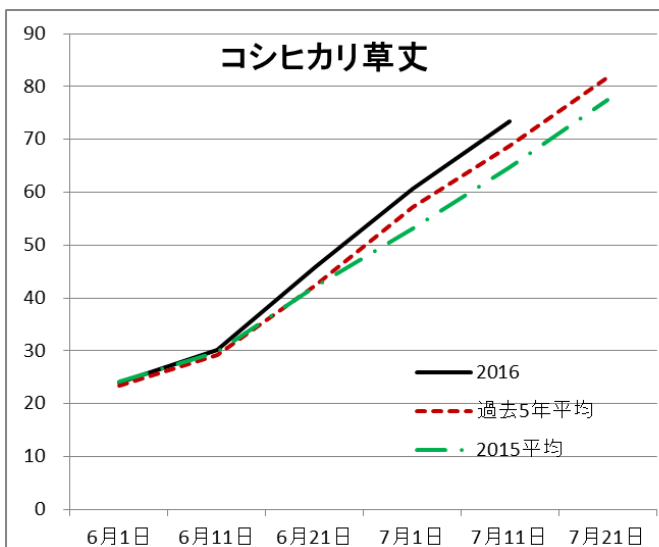
- ・ 4月下旬から5月上旬にかけては天気が周期的に変化したが、全般的には平年より降水量が多く、気温は高めに推移した。
- ・ 5月中下旬は中旬に最低気温が下がる日もあったが、晴れの日が多かったため、概して高温で推移し、降水量は平年並み～少なかった。
- ・ 6月に入っても月末まで高温傾向が続いた。6月4日頃の梅雨入り後は、まとまった降雨があり、特に下旬は平年の2倍程度の降水量があった。日照時間は平年よりも少なかった。
- ・ 7月上旬は梅雨の晴れ間となり、日照時間が多く、気温も高い日が多かった。

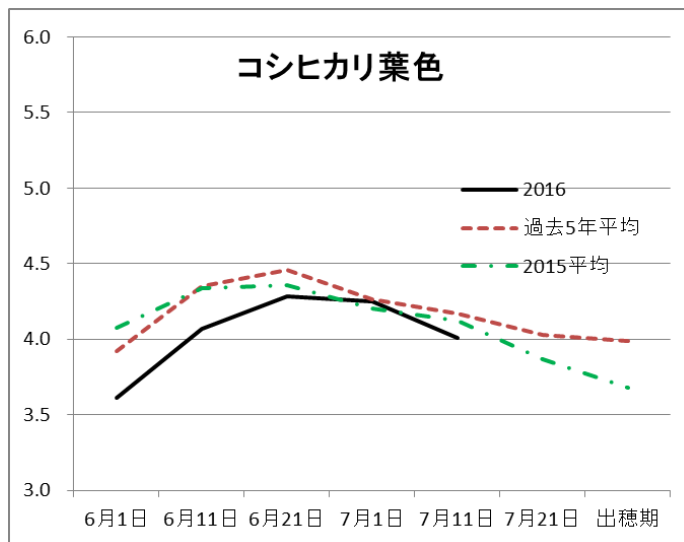
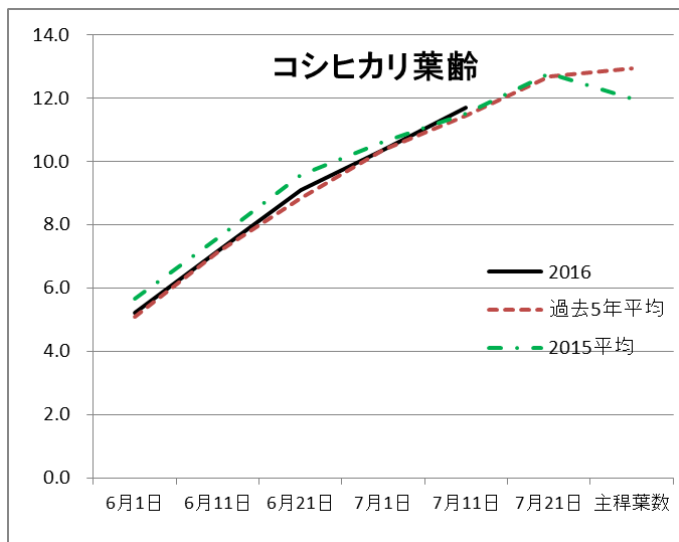
## 2 生育概況と今後の管理

### 水稻定点調査 7月1日時点の生育状況

品種	地帯	草丈cm		茎数/m <sup>2</sup>		葉齢		葉色	
			格差		格差		格差		格差
コシヒカリ	長門山間	72	5	362	▲ 124	11.7	0.3	3.8	▲ 0.4
	周防山間	65	5	342	▲ 90	11.5	0.4	4.3	0.0
	長門中間	79	8	378	▲ 17	11.2	0.0	4.2	0.0
	北浦	80	3	322	▲ 67	11.9	0.0	4.1	▲ 0.0
	瀬戸内東部	80	4	398	12	12.4	0.8	4.1	▲ 0.1
	平均	73	5	355	▲ 82	11.7	0.3	4.0	▲ 0.2
	農試定点	74	3	490	▲ 52	10.6	0.0	4.0	0.1
	農試奨励	87	4	390	▲ 146	10.2	▲ 0.1	4.7	0.3
ひとめぼれ	周防山間	75	5	335	▲ 77	12.1	0.9	4.5	0.1
	北浦	68	6	296	▲ 65	10.4	0.0	3.9	▲ 0.6
	瀬戸内東部	70	4	364	▲ 72	11.5	0.6	4.0	▲ 0.5
	瀬戸内西部	69	▲ 1	347	▲ 47	10.1	▲ 0.2	4.0	▲ 0.3
	平均	71	4	336	▲ 68	11.2	0.4	4.2	▲ 0.2
	農試定点	65	▲ 1	484	▲ 47	10.8	0.0	4.3	0.2
	農試奨励	79	1	398	▲ 133	10.2	▲ 0.1	4.7	0.3
晴るる	長門中間	68	2	363	12	9.8	▲ 1.0	4.7	0.3
	農試奨励	81	4	424	▲ 139	10.2	▲ 0.1	4.6	0.2
きぬむすめ	周防山間	69	12	440	▲ 80	11.8	0.5	4.6	0.4
	長門中間	60	1	361	▲ 66	10.2	▲ 0.1	4.4	0.0
	北浦	54	▲ 3	372	▲ 128	10.2	▲ 0.1	4.4	0.0
	平均	61	2	379	▲ 57	10.7	0.2	4.4	0.0
	農試定点	64	▲ 2	452	72	10.8	0.2	4.0	0.1
	農試奨励	79	0	397	▲ 127	11.3	0.4	4.3	▲ 0.1
ヒノヒカリ 6月上旬植	北浦	60	1	372	▲ 128	10.2	▲ 0.1	4.4	0.0
	瀬戸内東部	43	▲ 4	343	▲ 24	9.2	▲ 0.0	4.3	0.0
	瀬戸内西部	45	▲ 2	308	50	9.6	0.1	4.3	▲ 0.2
	平均	47	▲ 2	325	▲ 10	9.7	0.0	4.2	▲ 0.1
	農試奨励	48	3	455	81	9.5	0.4	4.9	0.3
ヒノヒカリ 6月中下旬植	瀬戸内西部	25	▲ 3	164	164	5.4	▲ 0.9	4.2	0.2
農試定点	36	4	306	▲ 11	8.6	0.3	4.3	0.3	

注) 格差は過去5年間乃至は4年間の平均値との差  
 葉齢、葉色の太字は止葉葉位及び出穂期葉色  
 (1) コシヒカリ (5月上中旬植え)





### ①生育の概況

#### 【葉齢・生育ステージ】

- ・葉齢の進展は、植え付けから現在まで概ね平年並～やや早めで推移している。
- ・5月上中旬植えでは幼穂形成期を過ぎており、出穂期は平年並～やや早いと予想される。

#### 【草丈】

- ・寡日照や高夜温の影響で徒長しており、平年よりも5 cm 程度長い。

#### 【茎数】

- ・6月中旬までは平年並みに茎数が増えてきたが、6月下旬以降は日照不足や降雨による深水の影響で分げつの発生が抑制され、平年よりも1週間程度早く最高分げつ期に達し、最高茎数が少ないほ場が多くなっている。

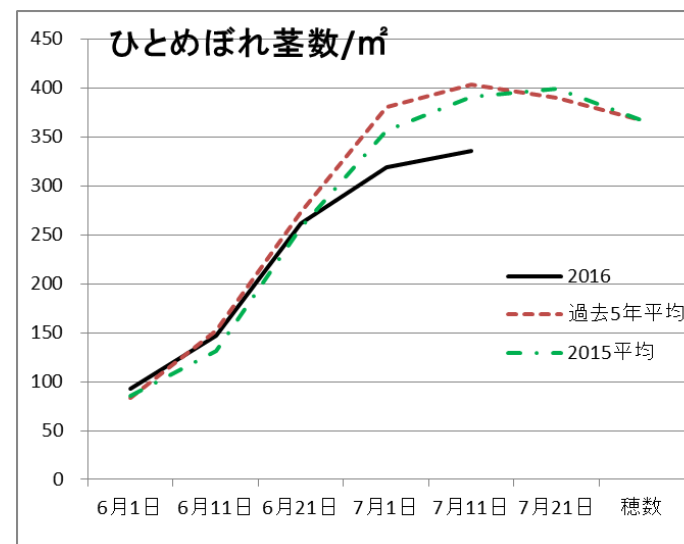
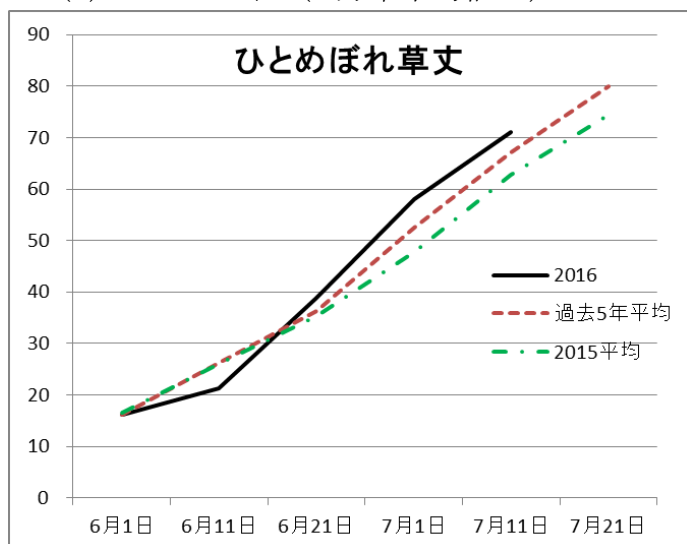
#### 【葉色】

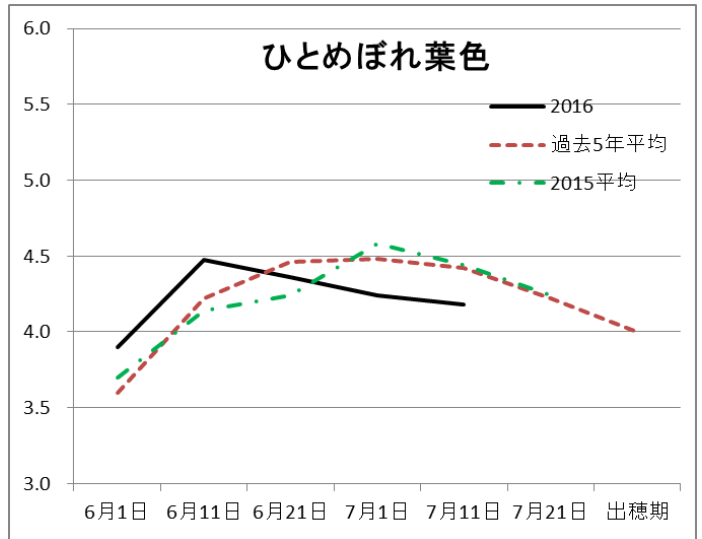
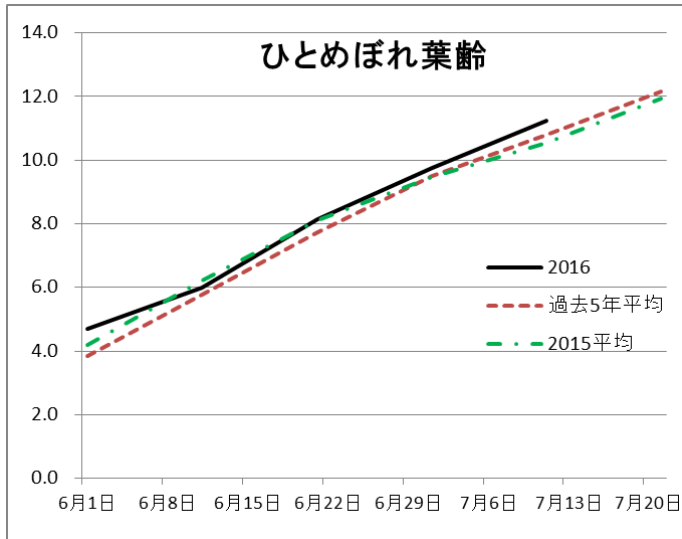
- ・葉色の発現は平年よりも遅いうえ、淡めに推移している。20日前頃から葉色の淡化も始まっている。

### ②今後の管理

- ・中干しは7月上旬には完了して、湛水管理に移行する。
- ・ほ場により幼穂形成にバラつきがあるので、穂肥施用の場合は必ず幼穂の状態を確認する。
- ・徒長していることから、穂肥施用は葉色の推移を良く観察し、慎重に判断する。天候不順の影響により、葉色の発現が悪い場合には、穂肥を控えるか減量する。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

### (2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)





①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・高温の影響により平年に比べて葉齢の進展は、平年並～早まっている。
- ・生育ステージは最高分げつ期～幼穂形成期で、5月中旬植えでは幼穂形成期に入っており、幼穂長が6cm程度のは場も見受けられ、バラつきも大きい。
- ・高温傾向が続けば、出穂期は、平年よりも早まる予想である。

【草丈】

- ・寡日照や高夜温の影響で徒長しており、平年よりも5cm程度長い。

【茎数】

- ・6月中旬までは平年並みに茎数が増えてきたが、6月下旬以降は日照不足や降雨による深水の影響で分げつの発生が抑制されており、7月11日時点では平年より1～2割程度少ない。

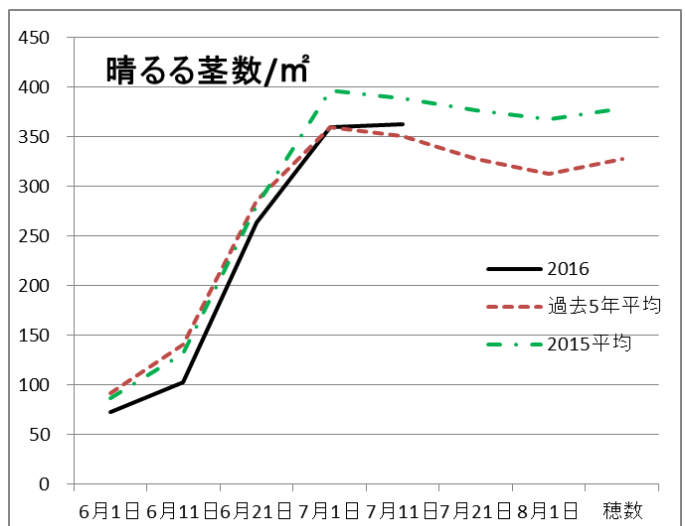
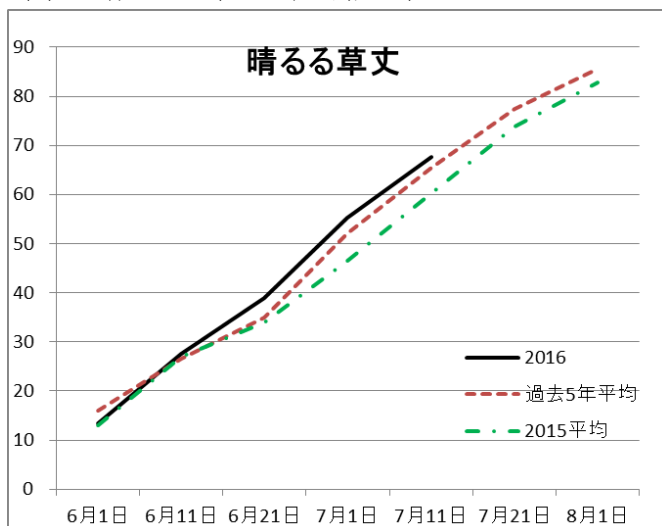
【葉色】

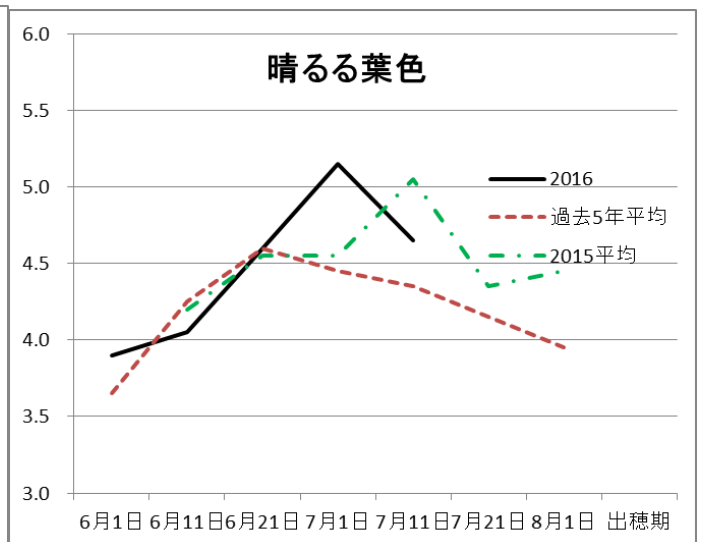
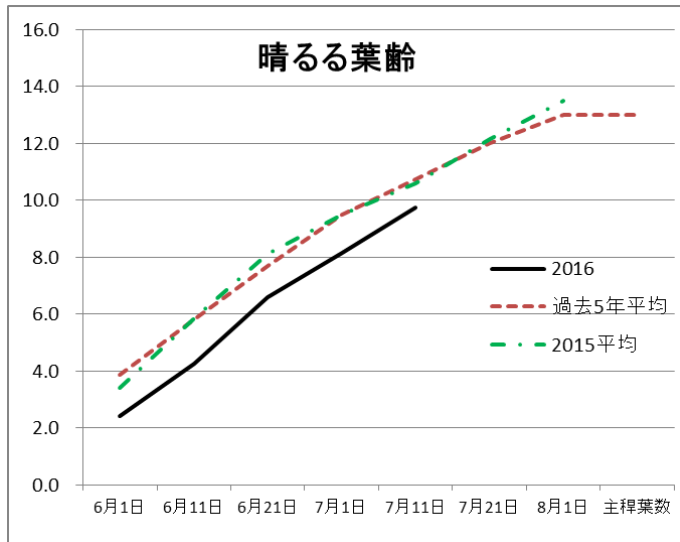
- ・例年よりも早い6月中旬頃から葉色の淡化が始まり、以後緩やかに淡化しており、現在は平年並～薄めに推移している。

②今後の管理

- ・ほ場や地域により生育ステージにバラつきがあることから、出穂期を予測して水管理や穂肥施用を行う。茎数が少ないほ場で、ガスの発生が無い場合には、中干しは軽めとする。
- ・出穂20日前となったほ場から順次湛水管理に移行する。
- ・徒長していることから、穂肥施用は葉色の推移により慎重に判断する。茎数が少なく、葉色の淡化が急激に進んだ場合は、デンプン蓄積量の診断等も用いながら、必要に応じて穂肥の施用時期を早めるなどの対応を取る。天候不順の影響により、葉色の発現が悪い場合には、穂肥を控えるか減量する。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

(3) 晴るる (5月下旬植え)





①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

・7月11日時点で、平年に比べて葉齢の進展はやや遅く、生育ステージは最高分けつ期となっている。

【草丈】

・平年に比べてやや長めに推移している。

【茎数】

・ほ茎数は概ね平年並である。

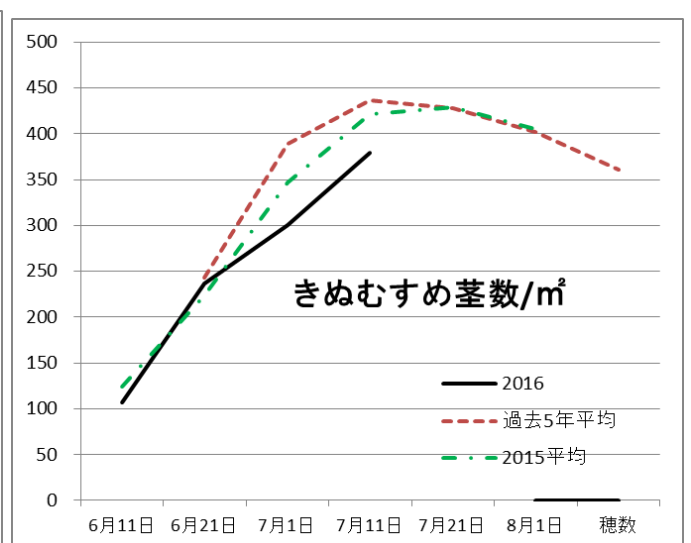
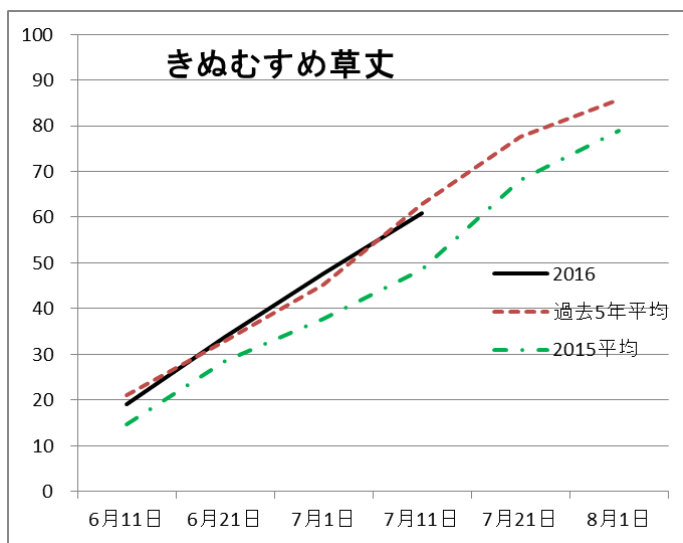
【葉色】

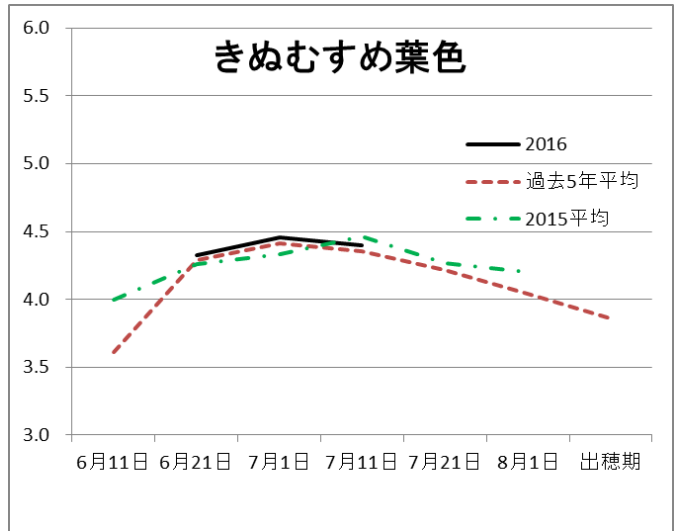
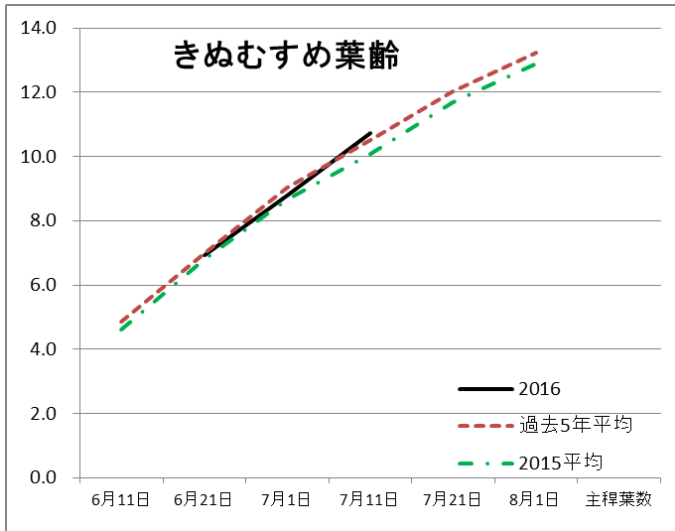
・葉色は7月1日頃から淡化している。

②今後の管理

- ・7月中旬まで中干しを行い、湛水管理に移行する。
- ・葉色が濃い場合は葉色の淡化を待って穂肥を施用する。
- ・葉いもちの発生が県内各地で確認されていることから、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。また、発病が無い場合も出穂前の防除は必ず実施する。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)





①生育の概況

【葉齢・生育ステージ】

- ・葉齢の進展はほぼ平年並で推移している。
- ・5月下旬植えの稲では分けつ終期～最高分けつ期、6月上旬植えでは、今後10日程度で最高分けつ期に入る見込みである。

【草丈】

- ・平年並みである。

【茎数】

- ・6月下旬以降は日照不足や降雨による深水の影響で分けつの発生が抑制されており、7月11日時点では平年より1～2割程度少ない。

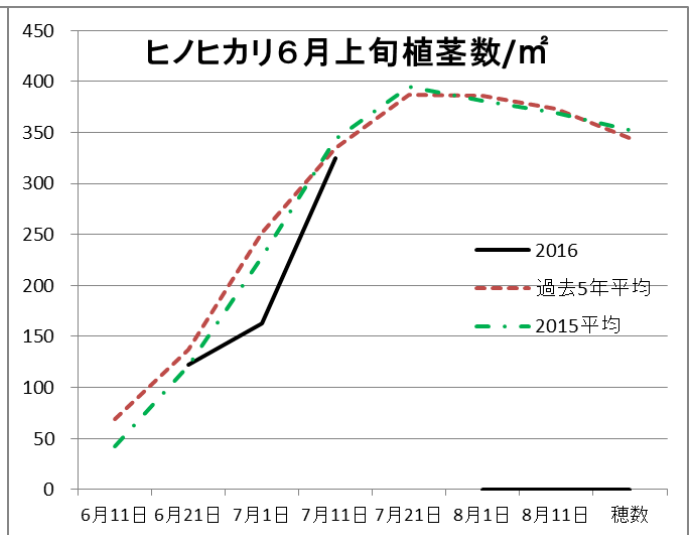
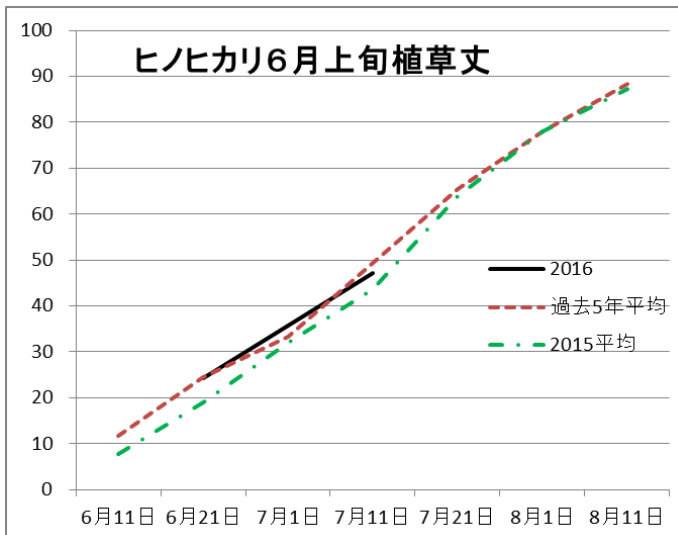
【葉色】

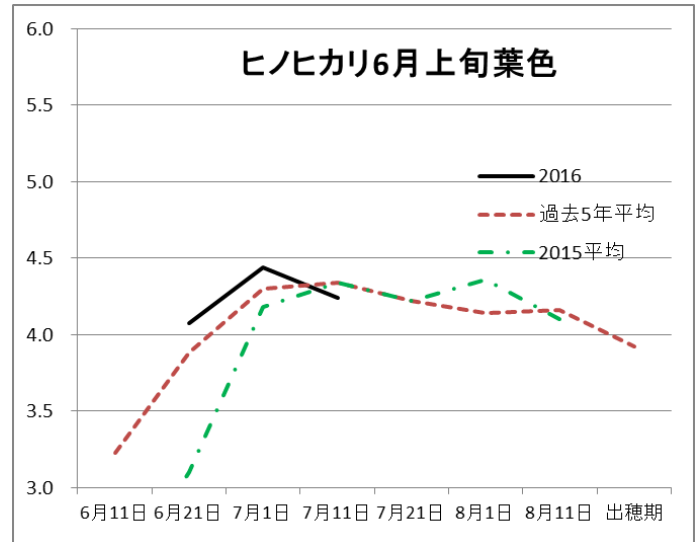
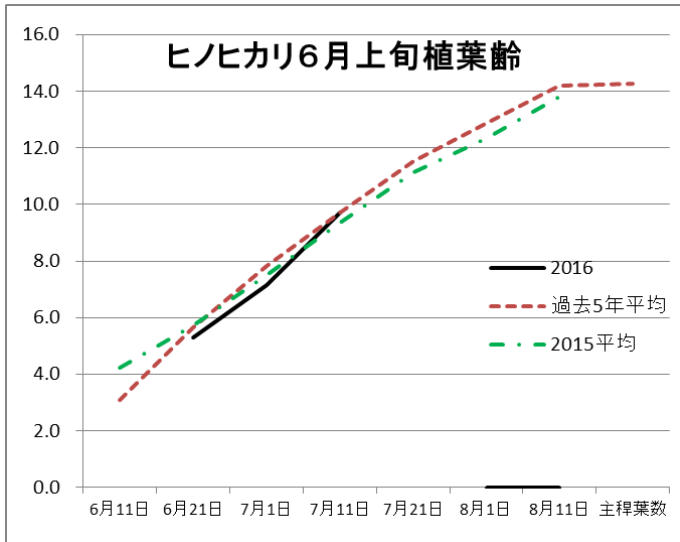
- ・葉色は、平年並みに推移している。

②今後の管理

- ・茎数が少ないほ場では、弱めの間断灌水とし、分けつが確保されしだい中干しを行う。
- ・茎数が少なく葉色の発現が悪いほ場では、根痛みしている可能性があるため、まずガスや赤枯れの発生の有無を確認し、落水・間断灌水の徹底等、根域の拡大と分けつの促進を図る。
- ・平坦部の稲でも葉いもちの発生が確認されていることから、病斑が確認されたら速やかに防除を行う。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

(5) ヒノヒカリ (6月上旬植え)





### ①生育の概況

#### 【葉齢・生育ステージ】

- ・7月11日時点で、葉齢の進展はほぼ平年並で推移している。
- ・7月上旬の好天により葉齢の進展が早まっている。

#### 【草丈】

- ・平年並みである。

#### 【茎数】

- ・6月は日照不足の影響で分げつの発生が停滞したが、7月上旬の多照により分げつの発生が促進されたことから、7月11日時点の茎数は、ほぼ平年並みである。

#### 【葉色】

- ・葉色は、概ね平年並みである。

### ②今後の管理

- ・高温で推移していることから、
- ・茎数が少なく葉色の発現が悪い場合は、根痛みしている可能性があるため、まずガスや赤枯れの発生の有無を確認し、落水・間断灌水の徹底等、根域の拡大と分げつの促進を図る。
- ・ほ場に残っている補植用苗は、速やかに除去する。

## 3 病害虫の発生状況

- ・BLASTAM (アメダス) の判定では、6月後半に全県的に、いもち病発生の好適条件が複数日生じている。6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 1.3% (平年 0.3%)、発病株率 0.1% (平年 0.0%) で平年に比べやや多く、7月1日の予報では今後の発生を「多」と予想されていることから、発生が認められた場合には、直ちに防除を行う必要がある。
- ・セジロウンカは、6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は 70.0% (平年 22.3%)、10株当たり虫数は 2.3頭 (平年 0.4頭) で平年に比べ多く、今後の発生は「多」と予想されていることから、今後の発生を **s x** 特に注意し、要防除水準の 50頭/株を超える場合には防除を行う。
- ・ヒメトビウンカは、6月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 1.3% (平年 12.0%)、10株当たり虫数 0.0頭 (平年 0.2頭) で平年に比べ少なかった。
- ・コブノメイガの現時点での発生量の予想は「平年並」である。
- ・トビイロウンカは現時点で飛来が確認されていない。